

第 59 回 日本生殖医学会  
東京、2014.12.04-05

早期 2 細胞期胚の確認はその後の胚発育予測に有効である

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

宮本 麻梨恵 中野 達也 佐藤 学 橋本 周 中岡 義晴 森本 義晴

#### 【目的】

近年、Time-lapse cinematography の導入により、異常分割胚では胚盤胞への発育能が低いことが報告されている。そこで、本研究では Primo Vision (Vitrolife)を用いて、第一分割における異常分割の有無と受精操作から第一分割終了までの時間を比較し、その後の胚発育の予測因子となるか検討した。

#### 【対象と方法】

患者同意の上、2013 年 8 月から 2014 年 4 月に当院で媒精もしくは顕微授精後、正常受精を確認した 33 周期 243 個の胚を対象とした。Day3 に単一胚移植を行い、余剰胚は胚盤胞まで培養した。第一分割で 2 分割となった胚を正常分割胚、3 分割以上になった胚を異常分割胚とし、それぞれ受精操作から第一分割終了までの平均時間を比較した。また、Day3 における移植可能胚率、胚盤胞到達率、良好胚盤胞率、および臨床的妊娠率を後方視的に比較した。

#### 【結果】

受精操作から第一分割終了までの平均所要時間は正常群 25.6h(n=162)、異常群 30.3h(n=81)となり、異常群で遅延がみられた( $p<0.01$ )。Day3 における移植可能胚率は正常群が 86.4% (140/162)、異常群が 58.0%(47/81)と正常群で高かった( $p<0.01$ )。また、胚盤胞到達率およびその内の良好胚盤胞率は正常群で 62.4%(83/133)と 50.6%(42/83)、異常群で 23.7% (18/76)と 22.2%(4/18)と、どちらも正常群で高かった( $p<0.01$ )。さらに、臨床的妊娠率は正常群が 37.9%(11/29)、異常群が 0.0%(0/5)と正常群でのみ妊娠例が得られた。

#### 【結論】

正常分割胚は胚盤胞までの発育能が高く、第一分割までの時間が短く早期に分割していた。以上から、早期に 2 分割している胚を観察することが、その後の胚発育を予測する手段になり得る。